

表. 進捗点検の観点・指標群の委員会・国交省対比表

・・・点検対象としていないもの

大項目	小項目	委員会		国交省		執行報告書該当頁	
		観点	指標群	観点	指標群		
(1) 環境の視点・川と湖沼の自然再生	1: ダイナミズムの確保による適度な攪乱の再生	観点1-1 地形変化を促す方向へ進んでいるか(S.I)	●地形変化量(横断測量の年変化・琵琶湖の湖岸地形の変化) ●河川敷地の増加量 ●堆積場面積増加量 ●年間土砂供給量	委員会と同 (地形変化を促すための検討状況)	●既設ダムにおける弾力的運用等の検討内容・魚類確認数	4.2.3 P36	
		観点1-2 流況・水位(流量・水位の変動様式)は健全か(S.I)	●流況・水位のピーク値 ●流況・水位の変動状況 ●流況・水位のピーク時期	委員会と同 (流況・水位(流量・水位の変動様式)の改善状況)	●淀川大堰による水位操作の改善内容・稚魚数 ●瀬田川洗堰による水位操作の改善内容・産卵数 ●琵琶湖における水位低下緩和方策の検討内容	4.2.3 P35	
		観点1-3 目標とする規模の攪乱が生じているか(S.I)	●裸地砂洲面積 ●冠水頻度と冠水面積 ●河床堆積有機物の流出量 ●沿岸湖底の定点測量による粒度分布の経年変化	-	-	-	
	2: 河川・湖沼の連続性の確保	観点2-1 内湾・汽水域・河川の連続性が確保されているか(S.I)	●回遊性魚類の種類・個体数 ●淡水性・汽水性・海水性生物の種類・個体数 ●塩分濃度勾配 ●河床底質勾配	委員会と同	●既設の堰・落差工の改良内容(淀川大堰)	4.2.3 P30	
		観点2-2 横断構造物(貯水ダム・砂防ダム・井堰など)による遮断対策(S.I)	●尺度化された構造物による連続性度合い ●各河川の全横断構造物に対する現状改善進捗度	委員会と同	●既設の堰・落差工の改良内容・魚道設置数	4.2.3 P31	
		観点2-3 本川・支川間の連続性が確保されているか(S.I)	●現状評価地図の作成 ●尺度化された連続性の好適度 ●各河川の全支川に対する現状改善進捗度	-	-	-	
		観点2-4 河岸・陸域の連続性が確保されているか(S.I)	●尺度化された岸沿い・浅瀬の浅瀬面積割合 ●尺度化された河岸地形(流路の蛇行度や岸線長さなど) ●尺度化された岸際環境(人工護岸・自然岩盤・裸地砂洲・草本植生・樹林) ●尺度化された一時的水域(ワンド・タマリ)の個数や面積	委員会と同	●ワンドやたまりの保全・再生内容・整備箇所数 ●干潟・ヨシ原の保全・再生内容・面積	4.2.3 P30	
		観点2-5 琵琶湖・内湖・流入河川間の連続性が確保されているか	●琵琶湖・内湖を回遊する魚類の各類型の尺度化された種数・個体数	委員会と同	●水域と陸域との連続性の確保と修復内容・箇所数	4.2.3 P32	
		観点2-6 湖岸・湖棚・湖棚崖・湖底斜面の連続性が確保されているか(S.I)	●全湖岸線に対する人工湖岸の割合・人工湖岸の類型化による評価	-	-	-	
	3: 琵琶湖・淀川水系の固有性および歴史・文化の多様性の尊重	観点3-1 琵琶湖・淀川水系の生態系の固有性および多様性の価値が保全されているか(S.I)	●尺度化された固有種の種類・個体数(RDBのカテゴリ別など) ●海浜植物・暖温帯性樹種(タブノキ等)、湧水性動植物(ハリヨ、バイカモ等)の生息分布状況とその変化 ●氾濫原性植物・寒地性植物の尺度化された生育種数・株数 ●氾濫原を利用する魚類の尺度化された生息種数・個体数	委員会と同 (琵琶湖・淀川水系の生態系の固有性および多様性の価値が保全状況)	●イタセンバラを目標種とした淀川中下流域での環境再生の実施内容・個体数 ●ナカセコカワニナの生息・繁殖環境として望ましい河川環境の再生方策検討内容 ●オオサンショウウオの生息・繁殖に適した河川環境の再生・創出方策の検討内容 ●アユモドキの生息環境として望ましい河川環境の再生方策検討内容・確認箇所数	4.2.2 P23	
		観点3-2 琵琶湖・淀川水系の歴史・文化の多様性の価値が保全されているか(S.I)	●地域固有の歴史的景観・地形の現状とその変化 ●固有な名詞のついた歴史的景観・地形の把握とその変化	委員会と同	●瀬田川の水辺のあり方に関する取り組み内容・整備延長	-	
	4: 生物多様性の保全	観点4-1 生態系・生物群集多様性の維持・回復に貢献しているか(S.I)	●事業実施にあたって、保全すべき生態系・生物群集のリストアップとそれに基づく尺度化された現状 ●ホットスポットマップ(貴重な生物・群集の分布図)の有無	委員会と同 (生態系・生物群集多様性の維持・回復に向けた取組状況)	●関係機関が連携した取り組み内容・回数	4.2.2 P24	
		観点4-2 種多様性を損なわず維持・回復に貢献しているか(S.I)	●絶滅危惧種・希少種の種類・個体数 ●ホットスポットマップ(貴重な生物・群集の分布図)の有無 ●海浜植物・暖温帯性樹種(タブノキ等)、湧水性動植物(ハリヨ、バイカモ等)の生息分布状況とその変化	-	-	-	
		観点4-3 遺伝的多様性を損なわず維持・回復に貢献しているか	●遺伝的多様性の現状把握と保全手法の検討・評価	-	-	-	
		観点4-4 生物多様性条約・ラムサール条約を遵守しているか(P)	●指針・ガイドラインへの尺度化された適合度 ●予防的アプローチを含む生物多様性の保全戦略策定	-	-	-	
		観点4-5 外来種対策が効果的に実施されているか(S,P,I)	●外来種の現状把握と対策必要箇所の選定 ●駆除対策・予防的処置の実施の有無 ●外来種問題の啓発の有無 ●外来種の駆除効果についての科学的検証の有無	委員会と同 (外来種対策の実施状況)	●外来種の現状把握と対策必要箇所の選定内容 ●駆除対策・予防的措置の実施内容・駆除数量 ●外来種問題の啓発内容・啓発活動参加者数 ●外来種の駆除効果についての科学的検証内容	4.2.2 P24	
	5: 流域視点による水質対策	観点5-1 水質負荷と環境影響についての流域的な現状把握ができていますか(S,P)	●河川水質の監視地点・測定項目・測定方法 ●自治体・関係機関、住民・住民団体との連携 ●重金属、ダイオキシン類等の有害化学物質の測定	委員会と同 (水質負荷と環境影響についての流域的な現状把握状況)	●琵琶湖の水質保全対策の取り組み内容・効果 ●河川の水質保全対策の取り組み内容・整備延長 ●ダム貯水池の水質保全対策の取り組み内容・対策実施数	4.2.5 P43	
		観点5-2 水質総量規制の制度や対策の計画を立案できているか(P)	●琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(仮称) ●水質総量規制の制度	委員会と同 (水質総量規制の制度や対策の計画立案状況)	●琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(仮称)の設立の検討内容	4.2.5 P42	
		観点5-3 流域視点による水質対策を実現しているか(I)	●流入河川と琵琶湖、琵琶湖と宇治川・淀川の連携数 ●河道内の砂洲面積 ●流水保全水路の総延長	委員会と同 (流域視点による水質対策)	●南湖の再生プロジェクト取組内容 ●新たな水質浄化の取り組み状況、流域全体での物質循環を含めた水質汚濁メカニズムの解明に関する調査研究内容	4.2.5 P45	
	6: 流域総合土砂管理の評価	観点6-1 流域の土砂生産・移動・堆積の実態が評価されているか(S)	●流域の土砂生産マップ ●地形変化量(横断測量の年変化) ●河川敷地の増加量 ●堆積場面積増加量 ●年間土砂供給量	委員会と同 (流域の土砂生産・移動・堆積の実態)	●既設ダム(河床変動等の土砂動態のモニタリング、総合土砂管理方策の検討内容) ●砂防施設(土砂を下流へ流すことができる砂防えん堤の設置内容・設置数)	4.2.5 P45	
		観点6-2 流域に土砂の受け入れ準備ができていますか(S,P)	●遊砂池の数、容積 ●土砂ポケットの数、容積 ●河川敷地の増加量	-	-	-	
		観点6-3 総合土砂管理の評価方法の確立と実施(P,I)	●各流域の土砂移動量、堆積量 ●土砂の侵食、移動、堆積の人為操作量	-	-	-	
	7: 流域的視野の環境影響評価	観点7-1 各流域の環境の課題と目標が整理されているか(S)	●環境の課題と目標を整理した環境計画の策定	-	-	-	
		観点7-2 環境影響評価の項目に流域的な要素を含んでいるか(P)	●期間中に実施された環境影響評価に上下流生態系に対する連続性遮断の影響や下流域への水質環境への影響などが項目として挙げられているか	-	-	-	
観点7-3 環境影響評価に長期的な環境コストを検討しているか(P)		●期間中に実施された環境影響評価に長期的な環境コストが盛り込まれているか	-	-	-		
その他	●環境の整備と保全に関する計画は批准された国際条約に準拠しているかP	●期間中に実施された環境影響評価に国際条約で挙げられている項目が反映しているか	-	-	-		
(2) 治水の視点・いかなる洪水に対しても氾濫被害をできるだけ最小化する	1: 被害軽減・避難体制	観点1-1 破壊氾濫に備えての被害の軽減対策、避難体制の整備は進んでいるか S, P	●水害に強いまちづくり協議会実施状況 ●ハザードマップ作成状況 ●災害体験者からの災害状況の聞き取り及びその情報発信 ●地下空間の利用者及び管理者への情報伝達体制整備状況 ●浸水実績及び想定表示看板設置の進捗 ●災害時要援護者に配慮した避難勧告・指示の発令基準の明確化及び周知体制整備の進捗 ●自治体、水防団、マスメディア等との情報共有化のための情報伝達体制の基盤整備の進捗 ●水防団の高齢化に対する支援の進捗 ●水防拠点整備の進捗 ●公共施設の耐水化の進捗 ●洪水氾濫時被害軽減のための土地利用規制・誘導施策の進捗	委員会と同 (破壊氾濫に備えての被害の軽減対策、避難体制の整備状況)	委員会と同 委員会と同 委員会と同 委員会と同 委員会と同 委員会と同 委員会と同 委員会と同	4.3.2 P57 4.3.2 P57 4.3.2 P58 4.3.2 P58 4.3.2 P58 4.3.2 P58 4.3.2 P57 4.3.2 P59 4.3.2 P59 4.3.2 P59 4.3.2 P59 4.3.2 P60	
		観点2-1 河川に集中させてきた洪水エネルギーの抑制/分散対策は進んでいるか S	●流域における保水・貯留機能確保の進捗 ●河川整備計画と都市計画との調整の進捗	委員会と同	委員会と同	4.3.2 P60 4.3.2 P61	
		3: 堤防強化	観点3-1 堤防の強化対策は進んでいるか S	●HWL以下、浸透、洗掘対策実施済み延長 ●堤防天端以下、浸透、洗掘対策実施済み延長 ●堤防天端舗装実施済み延長 ●堤防裏法補強(シート張、ブロックマット敷設)実施済み延長 ●堤防裏法尻洗掘防止対策実施済み延長 ●高規格堤防実施済み延長	委員会と同 (堤防の強化対策の実施状況)	委員会と同 委員会と同 委員会と同	4.3.2 P63 4.3.2 P63 -
			●桜堤モデル事業実施済み延長 ●樋門・樋管の改善措置の進捗	堤防強化対策の実施	委員会と同	側帯整備実施内容・延長	4.3.2 P69 4.3.2 P63
			●昭和28年13号台風実績降雨、実績降雨×1.2、実績降雨×1.5、実績降雨×2.0における越水及びHWL超過延長の減少 ●既存ダムの効果	委員会と同 (河道流下能力の増大、洪水調節の効果的な実施により、洪水水位の低減は進んでいるか S)	●実績降雨、計画規模降雨における越水及びHWL超過内容・超過延長 ●新設ダムの効果内容・洪水水位低下量	4.3.2 P67 4.3.2 P68	
		5: 上下流バランス	観点5-1 上下流バランスは保たれているか	●昭和28年13号台風実績降雨、実績降雨×1.2、実績降雨×1.5、実績降雨×2.0における上下流水位の変化	委員会と同 (上下流バランスの状況)	●実績降雨、計画規模降雨における上下流水位の変化内容	4.3.2 P68
	6: 土砂移動の制御	観点6-1 土砂移動の制御は進んでいるか S	●土砂移動抑制策(砂防堰堤、山腹工)の実施数量 ●土砂移動促進策(ダムからの排砂、砂防堰堤のスリット化)の実施数量	委員会と同 (土砂移動対策)	委員会と同 ●排砂及び砂防堰堤のスリット化の実施内容・箇所数	4.3.2 P71 4.3.2 P71	
		観点7-1 事業の進捗によって流域住民の洪水被害期待値はどれだけ減少したか I	●想定死者数の減少 ●想定床上浸水戸数(或いは面積)の減少量 ●想定床上浸水戸数(或いは面積)の減少量 ●想定洪水被害資産額の減少量	-	-	-	
	8: 高潮	観点8-1 高潮被害軽減策は進んでいるか S	●橋梁の嵩上げ、陸間操作の改善	高潮被害軽減策の実施状況	●橋梁の嵩上げ内容・箇所数 ●陸間操作の改善内容・箇所数【重複】	4.3.3 P75	
		観点8-2 想定高潮被害はどれだけ減少したか I	●高潮による想定死者数、床上/床下浸水戸数、被害資産額の減少	-	-	-	
	9: 地震津波	観点9-1 地震対策事業・制度は進んでいるか S	●河川管理施設の耐震化 ●総合的防災対策 ●防災拠点の整備	委員会と同 (地震対策事業の実施状況)	●河川管理施設の耐震対策実施内容・箇所数 ●緊急用河川敷道路の整備内容・延長	4.3.4 P75	
		観点9-2 地震対策によって想定河川管理施設被害はどれだけ軽減したか I	●想定堤防崩壊延長、堰・樋門樋管等構造物の想定破損減少量	-	-	-	
		観点9-3 津波対策事業・制度は進んでいるか S, P	●ソフト対策の進捗、陸間・水門の改善状況	委員会と同 (津波対策事業の実施状況)	●津波ハザードマップ作成支援内容・作成市町村数 ●津波情報提供設備の設置内容・設置数 ●陸間操作の改善内容・箇所数【重複】	4.3.4 P74	
		観点9-4 想定津波被害額はどれだけ減少したか I	●津波による想定死者数、床上/床下浸水戸数、被害資産額の減少	-	-	-	

表. 進捗点検の観点・指標群の委員会・国交省対比表

・・・点検対象としていないもの

大項目	小項目	委員会		国交省		試行報告書該当頁	
		観点	指標群	観点	指標群		
(3) 利水の観点・水需要管理の実現	1: 水需要管理の推進	観点1-1 濁水対策会議の機能拡大、常設化の進捗 P	●濁水対策会議の機能拡大、会議構成員拡大及び常設化(利水者会議)の実現	水需要抑制の実施状況	・濁水対策会議の機能拡大、会議構成員拡大及び常設化(利水者会議)の実現に向けた内容・ヒアリング回数	4.4.2 P82	
		観点1-2 水需要抑制の進捗 S	●利水者に対する指導 ●住民・事業所等に対する啓発	委員会と同 (水需要抑制の実施状況)	-	委員会と同 (住民・事業所等に対する啓発内容・回数)	4.4.2 P82
		観点1-3 水需要の精査の進捗 S	●水需要の精査 ●水利権更新時の情報開示	-	-	-	-
		観点1-4 水利権の見直し、転用の進捗 S.P	●見直しと転用のためのルール作り	委員会と同 (水利権の見直し、転用の実施状況)	委員会と同 (見直しと転用のためのルール作りの内容・件数)	4.4.2 P82	
		観点1-5 既存水源開発施設の再編と運用の見直し進捗 S	●見直しによって効果をあげうる事案の調査検討	委員会と同 (既存水源開発施設の再編と運用の見直し実施状況)	委員会と同 (見直しによって効果をあげうる事案の調査検討内容)	4.4.2 P83	
		観点1-6 慣行水利権の許可水利権化の進捗 S	●許可水利権化の件数	委員会と同 (慣行水利権の許可水利権化の実施状況)	委員会と同 (慣行水利権の許可水利権化の内容・件数)	4.4.2 P82	
	2: 濁水対策の確立	観点2-1 濁水対策容量の必要性と確保手法の検討 S	●濁水対策容量を確保することによる想定被害の減少	委員会と同 (濁水対策容量の必要性と確保手法の検討状況)	委員会と同 (濁水対策容量を確保することによる想定被害減少の検討内容)	4.4.3 P86	
		観点2-2 濁水対策容量の必要性と確保手法の検討 S	●濁水対策容量を確保することによる想定被害の減少	委員会と同 (濁水対策容量を確保することによる想定被害減少の検討内容)	委員会と同 (濁水対策容量を確保することによる想定被害減少の検討内容)	4.4.3 P86	
	(4) 利用の観点・川に活かされた利用	1: 「川でなければできない利用、川に活かされた利用」の実現 P I	観点1-1 河川管理者と利用者が「河川生態系と共生する利用」を実現するための情報を共有し、意思疎通を図ったか	●「河川生態系と共生する利用」に関する河川管理者と住民の協働した活動・取り組みの有無	-	-	-
		2: 陸域・水陸移行帯・水域の秩序ある利用に向けて誘導または規制に取り組んだか	観点2-1 陸域・水陸移行帯・水域の秩序ある利用に向けて誘導または規制に取り組んだか	●「陸域・水陸移行帯・水域の秩序ある利用」に関する河川管理者と住民の協働した活動・取り組みの有無	水域の秩序ある淀川利用に向けての誘導または規制の取組状況(水面利用)	・舟運の取り組み内容・水制工整備数 ・秩序ある河川利用に向けての取組内容・誘導、規制数【重複】	4.5.2 P89
		3: 陸域・水陸移行帯・水域の特性に配慮したかP	観点3-1 利用にあたり、河岸-陸域の連続性を確保するための取り組みを行ったか	●河岸-陸域の連続性を確保するための協働した活動・取り組みの有無	-	-	-
		4: 「本来河川敷以外で利用する施設」の縮小P	観点4-1 「本来河川敷以外で利用する施設」の縮小に取り組んだか	●河川保全利用委員会の取り組みとその成果	陸域・水陸移行帯の秩序ある淀川利用に向けての誘導または規制の取組状況(川らしい河川敷利用)	・河川保全利用委員会の取り組み内容・回数	4.5.2 P90
5: 「川に活かされた利用」の推進P		観点5-1 「川に活かされた利用」の推進に取り組んだか	●環境学習などの実施とその成果	委員会と同 (「川に活かされた利用」の実施状況)	・環境学習などの実施内容・回数	4.5.2 P91	
(5) 主体参加の観点・プロセスを共有する	1: 情報提供(公開)の適切性	観点1-1 あらゆる情報を公開したかP	●情報開示しなかったもの、件数	委員会と同 (情報公開の状況)	委員会と同 (情報公開の内容・件数)	4.1.2 P12	
		観点1-2 情報公開の方法は適切だったかP	●情報を住民にわかりやすく公開したか ●情報公開に多様な方法を検討し、活用したか ●情報公開の時期は適切だったか	情報発信方法の検証	・HP携帯サイトの内容・利用件数 ・HP携帯サイトにおける新着情報の内容・アップ数	4.1.2 P12	
		観点1-3 情報公開についての職員の意識を点検したかP	●点検項目、内容、回数	情報公開発信に関する職員の意識向上	・研修等の内容・開催数	4.1.2 P13	
	2: 説明責任(アカウントビリティ)P	観点2-1 説明責任(アカウントビリティ)を果たしたかP	●計画についての説明はどのような姿勢、方法で行ったか ●計画についての説明は十分であったか ●計画の説明に対して寄せられた意見や質問について、どのような姿勢、方法で説明したか ●計画の説明に対して寄せられた意見や質問、及びそれらに対する回答を公開したか ●計画の説明は住民に理解されたと考えるか、または理解されなかったと考えるか。理解されなかったのはなぜと考えるか	-	-	-	
		観点3-1 意見聴取の手法の開発に真摯に取り組んだかP	●対話討論会の実施方法の検討、実施回数 ●対話討論会以外の方法の検討、実施	委員会と同(意見聴取手法の開発に向けた取組)	・住民、住民団体との交流内容・回数	4.1.2 P13	
		観点3-2 意見聴取の対象を限定しなかったかP	●対話討論会についての広報や参加者の選定について対象を限定しなかったか ●意見募集のための広報について地域を限定しなかったか ●検討、実施状況	-	-	-	
	3: 住民意見聴取を十分行ったかP	観点3-3 いわゆるサイレントマジョリティからの意見抽出方法の開発に取り組んだかP	●意見募集のための広報の検討、実施状況 ●意見抽出方法の検討、実施状況	-	-	-	
		観点3-4 意見聴取のための広報は適切であったかP	●広報の方法、回数とその効果の分析	-	-	-	
		観点4-1 聴取した意見は計画や事業に適切に反映されたかI	●整備計画(案)への具体的意見反映項目、箇所	-	-	-	
		観点4-2 意見を反映しなかった理由を住民に説明したかP	●回答しなかった、または回答できなかった件数とその理由 ●説明方法、回数	-	-	-	
	4: 聴取した意見を整備計画に反映したか I	観点4-3 意見聴取の方法と結果を事後評価したかP	●事後評価の方法と結果	-	-	-	
		観点4-4 意見聴取・反映により住民との信頼関係は構築できたかI	●信頼関係の構築状況を確認する手法の検討、実施状況	-	-	-	
観点4-5 問題や課題についての認識を共有しているかP		●問題や課題についての認識共有を確認する手法の検討、実施状況	-	-	-		
観点4-6 計画は住民の考えや願いとずれていないかP		●アンケート調査など意見抽出手法の検討、実施とその結果	-	-	-		
5: 「住民参加推進プログラム」の策定P	観点5-1 「住民参加推進プログラム」の策定に取り組んだかP	●利害対立調整の手法の検討、実施状況	委員会と同 (「住民参加推進プログラム」の策定状況)	・住民参加プログラムの検討内容	4.1.2 P10		
	観点6-1 公募、選任は適正に行われているかP	●河川レンジャー選任システムとその実施状況	河川レンジャーの進捗状況	・河川レンジャーの選任システム・在籍人数	4.1.2 P10		
	観点6-2 河川管理者のレンジャーへの対応は中立性が保たれているかP	●河川レンジャー運営システムとその実施状況	-	-	-		
6: 住民参加の社会実験としての「河川レンジャー」の進捗P	観点6-3 住民・行政との相互学習の場となっているかP	●河川レンジャーと住民・住民団体との交流方法、実績	河川レンジャーの進捗状況	委員会と同 (河川レンジャーと住民・住民団体との交流内容・回数)	4.1.2 P11		
	7: 諸委員会・協議会等への住民参加P	観点7-1 諸委員会・協議会等への住民参加は進んでいるかP	●住民委員の属性と参加数	-	-		
8: 住民参加のボトルネックの見極めと対策S	観点8-1 川、河川管理、計画策定について、住民の無関心、無関係意識があるかS	●各種会議、委員会への参加人数 ●対話討論会への参加人数 ●意見や質問の提出件数 ●アンケート調査の回答率 ●各種イベントへの参加人数 ●各種広報に対する反応	-	-	-		
	観点8-2 職員に「住民は無知」、「行政は無謬」という意識があるのではないかS	●職員の意識調査 ●職員の改善提案(制度) ●職員研修の実施(制度)状況	-	-	-		
	観点8-3 住民対応の体制が未整備なのではないかS	●住民窓口の常設 ●流域センターの設置状況 ●対話討論会の実施状況 ●住民説明会の実施方法、回数	-	-	-		
	観点8-4 行政、関係機関が事業を計画、実施するにあたり人員・時間・予算などの余裕の不足があるかS	●職員対象のアンケート調査	-	-	-		
	観点8-5 住民が参加し、行政と協働するための参加のデザインの未熟はないかS	●職員研修の実施状況 ●市民提案や協働提案の件数とその取扱状況	-	-	-		
	観点8-6 住民が参加し、行政と協働するためのしくみやルールを整備しているかS	●対話の場やしくみ(空間・ソフト・ハード・コーディネータなど)の欠如 ●情報提供の不足、情報共有の欠如 ●住民参加プログラムの策定状況	-	-	-		
9: 住民参加の取り組みへの住民の満足度を把握できているかI	観点9-1 住民参加の取り組みへの住民の満足度を把握できているかI	●満足度に関わるアンケート調査など意見抽出手法の検討、実施の有無	-	-	-		
	観点9-2 住民参加の取り組みへの住民の満足度を把握できているかI	●満足度に関わるアンケート調査など意見抽出手法の検討、実施の有無	-	-	-		
的(6) 管理統合的流域管理の観点・複眼的で総合	1: 治水・利水・環境の事業間で相互関係性が検討され示されているか	観点1-1 相互補完する関係が各事業内容に考慮されているか	●当事者参加型調整プロセスの有無 ●土地・施設・資源・資金・人・情報などを補完的に利用する工夫の有無 ●事業間のつながりを示す連関図または連関表の作成・公開の有無	-	-	-	
		観点1-2 協働する関係が各事業内容に考慮されているか	●協働する関係を示す連関図または連関表が作成・公開の有無 ●当事者参加型調整プロセスの有無 ●土地・施設・資源・資金・人・情報などを共有する工夫の有無	-	-	-	
		観点1-3 競合する関係が各事業内容に考慮されているか	●競合する関係を示す連関図または連関表が作成・公開の有無 ●上中下流の地理的利害関係の有無 ●セクター・組織間の利害関係の有無 ●公平性と効率性の対立 ●長期・中期・短期の視点のずれ	-	-	-	
2: PDCAサイクルの実現	観点2-1 事業全体のロードマップが適切に示されているか	●事業の順序は適切か(空間的順序性、時間的順序性、緊急性等優先基準)	-	-	-		
	観点2-2 PDCAサイクルの小輪から中輪への接続戦略の有無・適否	●成功事例(モデル)の構築とノウハウの積み上げの戦略の有無 ●他の地域やケースに普及させていく戦略の有無	-	-	-		
	観点2-3 長期にわたる大規模な公共事業計画の社会的条件の変化による見直しや中止のための法整備、しくみづくりに取り組んだか	●長期にわたる大規模な公共事業計画の社会的条件の変化による見直しや中止のための法整備、しくみづくりに取り組んだか	-	-	-		